

グループ① 川之江高等学校

(題材) 四国中央を「紙のまち」として発展させたい!

| 魅力と課題 | |
|--|---|
| <p>(魅力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国有数の企業が立地 ・身近な紙文化(紙まつり、和紙づくり、書道パフォーマンス、水引、偉人、機能 等) ・手すき和紙の技術(すかし)を発明した篠原朔太郎氏の出身地(川之江) ・薦田篤平氏(上分出身)手すき和紙から機械すき導入 ・尾藤二洲(江戸時代の儒学者で寛政三博士の一人)の出身地 ・多くの史跡が残る城下町 ・城下町の歴史を支える和紙そして紙産業(教育にも活用される体験、儒学のまちに必要な紙、紙産業の技術者を生んだ町) | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙のことについて知る機会を逃している ・紙のことについてよく学ぶ小学校でも資料館に行かない ・川之江城には行くけど紙の歴史は学ばない ・遠足で紙産業を支える水資源の確保に重要な富郷ダムに行っても紙の歴史について知ることができない ・城下町の歴史性と紙の文化が結びつかない ・城下町としての魅力を伝えられていない |
| 課題を解決するためには | |
| <p>(自分達で取り組む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙のまち資料館を中心にモデルコース「城下町で紙を知るペーパーロード」作成 ・みんなに「モデルコース」を知ってもらう方法として、水引・和紙で作った『紙らしさ』が伝わる宣伝物の配付 ・城下町で和紙をつくるイベント開催 ・和菓子の紙包装の素材として和紙を使用する ・学校の放送、SNS 活用 ・文化祭で折鶴・水引展示する ・朔太郎さんノートをつくる ・モデルコース上で朔太郎さんノートを用いたスタンプラリーを実施 (紙についての勉強の機会創出) ・ツアーを通して紙を入口に川之江の歴史や文化を紹介 | <p>(行政に期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの文化を市民に対しても積極的に発信し、地域への愛着、地元への誇りをもてるような施策を実施してほしい ・まちの魅力である紙文化について市民が平等に知ることができる機会をもっと作ってほしい |
| 目指したい未来 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが川之江の紙の文化と城下町としての歴史について詳しく知り、誇りを持てるようにしたい ・住み続けたいと思えるまちになってほしい ・みんなが広く紙の文化と城下町としての歴史について知れるまちになってほしい | |

